

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500238		
法人名	特定非営利活動法人あやめ		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	長野県飯田市川路2682番地		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特定非営利活動法人あやめは、「地域福祉の拠点」という理念の下に、宅老所さろんあやめ(通所)、介護センターあやめ(居宅)、そしてグループホームあやめを設立してきたことで、馴染みの利用者さんが継続した介護が受けられることによって、地域の人たちが安心して生活できるようになりました。同一法人内なので事業所間の連携が取りやすい環境です。

今年度はコロナ禍で、ご家族との面会や外出の制限をしたり、地域の演芸ボランティアや保育園との定期交流会、小学校への行事参加などができず、利用者さん達もストレスの溜まった1年となりました。そんな中でも、保育園からはひまわりの苗を届けていただいたり、小学校からは定期的に子ども達の絵や習字などの作品を持って来ていただき、施設の壁に飾らせてもらいました。直接会っての交流が難しい状況でしたが、できることを考え実行することで、心温まる交流ができました。

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500238-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍のため、グループホーム以外に他の事業所を抱えている法人では、地域との交流や外出が制限され、家族との面会も思うように実施できない例が多く見受けられる。しかし、このグループホームは限られた範囲でできることを見極め、独自に工夫して取り組んでいることが素晴らしいと思われる。

面会がビデオ通話や電話などの機器を使った方法に頼りがちになる中、利用者本人の気持ちを考え、家族の協力を得ながら玄関先や外での直接の面会ができるように工夫してきている。また、地域との連携を大切に、コロナ感染が治まっている期間を活かし、運営推進会議を開いたり、避難訓練を行ったり、水防訓練に参加したり、また、録画に参加したりして、積極的に関わってきている。そして、外出することも消極的になりがちになる中、車で買い物やドライブする時には車の中で待ったり、見物するようにしたりして、少しでも利用者が気分転換でき、生活に張り合いをもてるように工夫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和4年9月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

グループホーム あやめ
(別紙)
自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度、法人理念に基づきグループホームの理念を作成しました。「ご利用者が生き生きとされ、笑顔がたくさんみられるような支援を心掛け、地域やご家族に愛され信頼される事業所を目指します」という理念を職員会の際に確認しています。	昨年度作成した理念を、コロナ禍の状況の下、どのように活かしていくか検討してきている。職員はマスクを付けて対応しても利用者はマスクなしでのびのびと生活できるようにしてきた。また、利用者にとっては家族との面会は重要と考え、コロナ感染レベルを考慮した柔軟な対応をしてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ禍により運営推進会議に地域の方に来ていただくことが難しい状況でした。また、保育園や小学校との交流会も中止となりました。年4回「あやめ便り」を通じてグループホームの活動内容や日頃の様子を地域に発信しています。	今年度もコロナ禍のため保育園や小学校との交流会は中止になったが、案内状をいただいたり、作品を交換して展示したりして交流が途切れないようにしている。地域の方々のつながりを大切に、年4回「あやめ便り」を継続して発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「あやめ便り」でグループホームの活動内容や日頃の様子を知っていただき、認知症になっても住み慣れた地域で、元気に住み続けられるように支援していることを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議終了後にアンケートを実施しています。アンケートの内容を報告し、職員会で話し合いました。	6月には運営推進会議を開催することができたが、その後コロナ感染の拡大のため、書面による連絡になってきているが、継続して活動している。運営推進委員にアンケートを実施して、その結果を活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度、運営推進会議がコロナ禍により書面での報告が増えたので、地域包括支援センターの多くの職員に閲覧していただき、意見や要望などを聞いています。	コロナ対策として、市からマスクや検査キットを配布してもらったり、補助金で消毒液を購入したりしている。また、地域包括支援センターの職員との連携を密にして、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討会を実施しました。ふだんから職員みんなで現在の状況確認、実態把握をして、改善目標や実施期間について話し合っています。	身体拘束適正化検討会では身体拘束だけではなく、薬による拘束、言葉による拘束という面から広くとらえ、検討してきている。センサーマットの使用や、ふだんの薬の服用などについても話し合い、検討して、身体拘束をしないケアを推し進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度もコロナ禍ため外部の研修は見合わせました。身体拘束適正化検討会で、現在の状況確認、実態把握をみんなで話し合い、改善の目安や時期について確認しました。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修する機会はありませんでした。昨年8月より、自分で金銭管理をされる方がいなくなりました。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しく契約する時には、面会して話し合うようにしています。そして、看護師に同席してもらい、食事についてや知ってもらいたいことなどをお聞きし、看取りについても話し合っています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度もコロナ禍のため家族会を中止しました。運営推進会議も書面での対応でしたが、不安や疑問があれば直接管理者に連絡していただくように説明しています。各利用者さんごとに担当職員がおり、毎月手紙で様子やお知らせをお伝えしたり、急ぎの用事は電話連絡などしたりして連携を深めています。特別な場合は所長からご家族に向けて書面でお知らせしています。	コロナ禍の中でも、家族の意向を踏まえ、利用者と家族とが直接顔を合わせることができるよう面会を実施してきている。玄関先や外での面会などを工夫し、柔軟に対応するようにしてきたので、利用者の精神的な安定感が保たれてきた、と語っていた。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会で挙げた議題について、法人の所長会議で検討しています。所長会議で解決できないことは、法人の運営委員会で話し合っています。	地域からの要望で、「記憶の居所(すみか)」という映画の製作に協力してきた。コロナ禍の中でもできる感染対策をしながら、職員の意見を採り入れ、職員がエキストラになってふだんのグループホームの生活を録画できたことは励みになった、と語っていた。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度初めて法人全体の売上げが下がったため、賞与の減額を行いました。その際、法人内の各事業所での職員会に参加し、現状の説明やこれからの展望を話しました。職員一人ひとりが、やりがいや向上心を持って働くよう説明しました。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がかつていろいろな事業所や異なる介護施設で働いていたので、それぞれが高いスキルを持っていることを感じています。それぞれが得意分野で力を発揮できるようにしています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度もコロナ禍のため、研修会をリモートで行うこともありました。研修会で知り合いになった施設を訪問して、語り合う機会がありました。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、利用者さんに信頼していただけるようにしっかりコミュニケーションをとり、円滑な関係づくりに心掛けています。利用者さんの心配事にそのつどしっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所になるように努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入段階では、ケアマネジャーと管理者がご家族の不安や要望に耳を傾け、その後は利用者さんの担当職員が窓口となり、いろいろな相談にのっています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認しています。できるだけ今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるように努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんに役割を果たしていただけるような場面を探し、提供するとともに、役割を果たしてくださった時は、感謝の言葉を伝えていきます。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの利用者さんに担当職員を設け、ご家族への連絡をお願いしています。以前の外部評価での助言により、毎月利用者さんの様子を手紙でお伝えしています。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的にはご家族、親戚や友人、近所の方々などに気軽に面会に来ていただけるようお伝えしています。今年度はコロナ禍のため、面会やボランティアの受入れを制限しましたが、利用者さんの心身健康状態を考慮して面会を許可しています。	コロナ禍のため、これまでの馴染みの場所への外出は避けるようにしている。しかし、できる限り家族、親戚や友人、近所の方々などに気軽に面会に来てもらえるように伝え、面会の方法を変えている。コロナの感染状況によって、玄関先やすぐ近くの駐車場で面会することもある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を職員が共有するように努めています。そして、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境づくりに心掛けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所された利用者さんのご家族と、同じ地区内で顔を合わせる機会には、現在の様子を聞いたり、困ったことがあれば相談をお受けしたりできるように声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や意向を大切にし、日頃からコミュニケーションを大事にしています。また、利用者さんを中心とした支援が行えるよう心掛けています。ご家族や関係者からも入所以前の情報を得るようにしています。	ふだんから利用者とのコミュニケーションを大切にして、その様子や言動をそれぞれの「ケース記録」に昼間、夜間とに区別して記録し、職員間で共通理解している。利用者それぞれに担当職員を決め、その職員が中心となって希望や意向を把握し、支援できるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで過ごしていた施設や担当されていたケアマネージャーから、事前に情報提供していただいたり、ご家族や友人、知人の話を聞いたりして、これまでの暮らしの十分な把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを理解して、持てる能力を発揮できる状況を見極め、支援に努めています。利用者さんのわかることやできることを職員同士で確認し、支援できるようにしています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当職員を中心にモニタリングを行い、職員会でカンファレンスを行っています。また、ご本人やご家族に意見や要望を聞いて反映したり、状況に応じたりした介護計画を作成しています。	利用者それぞれの「ケース記録」を基に、本人らしい生活ができるように長期目標、短期目標を設定し、それに応じたサービス内容を検討している。そして、担当職員を中心してモニタリングを行い、課題や成果を検討している。カンファレンスでは、職員間での共通理解を大切にして、利用者や家族の意見を反映した介護計画になるように努めている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量や排泄状況等の他、ご本人の言葉や行動などのできごとを「ケース記録」に記録しています。また、「連絡ノート」を作って記録し、職員間で情報の共有に努めています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、買い物代行や病院への受診・入院のお手伝いなどを支援しています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは近所のお店まで散歩したり、買い物をしたりしながら、地域との関わりを大切にしてきました。今年度はコロナ禍のため、地域からのボランティア派遣や保育園や小学校との交流会の参加、受入れを見合わせてきました。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医による訪問診療時には、これまでの利用者さんの状況報告を行い、訪問診療の記録をとっています。利用者さんの体調や薬のことなどの心配事を直接先生と話すことができます。	コロナ禍の中では利用者の健康管理が大切であると考え、月2回のかかりつけ医による訪問診療を念入りに行ってもらい、ワクチン接種も行ってきた。また、歯科医の訪問診療もあり、健康維持に留意してきている。専任の看護師もいて、ふだんの健康状態の観察や急な場合の処置などに万全を期している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師さんに、日頃の健康状態や医療面での相談をしたり、処置をしていただいたりして、医療連携を図りました。緊急時には、「さろんあやめ」の看護師も協力し、対応してくれます。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を時々ご家族へうかがい、回復状況などの情報をいただき、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けています。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年度「重度化・終末期対応の指針」を作成し、昨年7月に初めて看取りをしました。看取りをした後に、ご家族や職員に振り返りのアンケートを取り、次回に繋がるようにみんなで話し合ってきました。	入所時から看取りを行うことを話し合ってきたので、昨年初めての看取りでもマニュアルに沿って対応することができた。そして、家族とかかりつけ医や職員とが連携して対応してきた様子について記録を取り、その後、家族や職員からアンケートを取って、今後の指針としてきている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専任の看護師さんにいつでも電話で相談でき、対応できる体制を整えました。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月5日に火災を想定した避難訓練を実施し、消防署の方にも来ていただき、消火訓練も行いました。10月19日には、停電を想定した訓練をして、9時30分から17時30分までの間購入した発電機を使った生活してみました。そして、職員会でも発電機の使い方を確認しました。	4月に三六災害の経験を活かした「天竜川上流総合水防訓練」に参加し、一次避難場所の川路自治振興センターから二次避難場所の「ハートヒル川路(養護老人ホーム)」までの避難を実施してきた。また、6月には消防署や消防団の協力を得て避難訓練や消火訓練を行い、10月には停電を想定した訓練を行って、災害に対して積極的に対応してきている。	BCP(事業継続計画)に基づき、火災、地震、水害、感染症などの対応、対策を総合的に計画していく必要性がある。

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前に比べ、指示が伝わらない利用者さんが増えていますが、利用者さん一人ひとりがゆっくり過ごせるグループホームを目指していくことができると良いと思います。	認知症が進行している利用者が多く見られるようになってきたので、介護計画を見直したり、研修をしたりして対応している。「目を開けて、もっと私を見て！」という資料を元にして研修を行い、利用者が理解し話ができるまで待ったり、利用者がゆっくり話ができるように待ったりする対応などを学んできている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのそれぞれの状態に合わせて、できるだけ自分で決めていただくように努めています。また、各担当職員がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ取り入れるように努めています。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、利用者さん一人ひとりの体調や状況に合わせた個別性のある対応を心掛けています。認知症でできないことに対して、丁寧にゆっくり時間をかけて相手が理解するのを待つように努めています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選ぶように、ご本人の気持ちを配慮した支援をしています。定期的に床屋や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けています。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんが食器や湯飲み拭きなどをしたりするような、個別にできることを手伝っていただいています。	業者から加工食品を受け、それを配食する食事形式を取っている。このような中でも、利用者にごしらえをしてもらったり、利用者好みの食器を用意したり、利用者の様態に応じてトロミ食やきざみ食にしたりして、職員と一緒に会食するようにしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食利用者さんと職員が同じ物を一緒に食べるようにしています。食事の様子を観察しながら、食べやすい形態を検討し工夫したり、食べる量を検討したりして、利用者さんの体調にも配慮しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個別に声かけし、口腔ケアを行っています。見守りや、介助が必要な方にもできるだけご本人に行っていただき、できない部分の介助をしています。利用者さんによっては、歯科衛生士さんに入っていただき、歯磨き指導を受けています。		

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を分かりやすいよう表示しています。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた言葉かけや誘導を行っています。	利用者の排泄の習慣やパターンに応じてリハビリパンツを使用したり、パットを使用したりしている。また、ゆっくり寝られるように夜おむつを使用している利用者もいる。利用者が寝たきりの状態にならないように、立位でのパンツやおむつの交換を介助している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の予防に努めています。日頃から散歩や屋内での適度な運動を行い、手作りヨーグルトを毎日食べて便秘の予防をしています。下剤を使い過ぎないように話し合っています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんの好みに合わせた室温、湯温に心掛けています。順番やその日入る利用者さんに配慮して、ゆっくりとお風呂に入りたい方にも十分時間をかけています。立位が困難になってもリフトを使って入浴することができます。入浴剤などを使いリラックスした雰囲気になるように心掛けています。	利用者の状態に合わせて、リフト浴をする利用者は2人、介助して洗ってもらう利用者が1人いる。利用者の生活スタイルに合わせて、ゆっくり入浴を楽しんでもらったり、入浴剤を入れて気持ちよく入浴してもらったりするように心掛けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やして生活リズムを整えています。午睡時間は、利用者さんに合わせて昼寝をしたり、雑誌を見たり、日向ぼっこをしたりして過ごしてもらっています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに服薬内容の明細を綴り、各職員が内容をいつでも確認できるようにしています。確実に服薬できるように管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れを確認できるようにしています。薬の変更があった場合は、その後の利用者さんの様子などを観察しています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん同士が助け合い協力し合って生活を送ることで、良好な関係が作られます。生活に張り合いが持てるように支援しています。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、そのつど感謝の言葉かけをするようにしています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしています。食材や日用品の買い出しにも、利用者さんに同行してもらっています。	コロナ禍のため、これまでのような自由な外出ができなくなっているが、コロナ対策を十分にとった外出をしている。近くを散歩する時にもコースを変えたり、買い物に同行したり、ドライブに出かけたりする時でも車の中で待ったり、外の景色を見たりするだけの場合が多くなってきている。	

グループホーム あやめ

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年8月より、自分で金銭管理をされる方がいなくなりました。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年8月より、携帯電話を使われる方がいなくなりました。ご家族との対応も、担当職員が間に入って説明することが増えています。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして、心地よい空間作りを目指しています。	共用スペースのホールは、心地よい空間を目指して季節の花や利用者のちぎり絵で飾り、空気清浄機も備えている。また、窓際にソファを置いたり、その外には広いベランダを設けたりしてきたので、利用者がゆっくり過ごしたり、日向ぼっこで温かく過ごしたりできる快適な空間になっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える窓際にソファを置いているので、気の合う方々でゆっくり話ができる場所となっています。広いベランダでは天気の良い日に日向ぼっこができるようになっています。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんが、それぞれにとって居心地の良い居室になるように、担当職員を中心に職員会で話し合い、ご自分の好きなハーモニカやラジカセを置いたりして、ゆったりと過ごしてもらっています。	どの居室もすぐリビングやダイニング(ホール)に出入りできるような配置がされ、出入り口も幅広くとっている。利用者個人のレベルに合わせて居室を決めている。居室にはエアコンや温度計・湿度計を備え、シンプルなクローゼットが設置され、利用者好み器具も備えられて、快適でゆったりとできる環境になっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいように目印や名前を付けています。できるだけ、ご自分の部屋をモップなどで掃除してもらっています。		